

FDP		249000			
		担当部署			
FDP		血液			
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		特記事項なし			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*1.頻用→			
	2	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→血液学→			
	3	電子カルテ→指示①→検査→*3.緊急→			
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		血漿 FDP 測定法は、血漿を用いるために血液凝固塊に FDP が取り込まれ偽低値になることがない。また、モノクローナル抗体を使用しているのでフィブリノゲンとの交差反応がなく、フィブリノゲン混入による偽高値は生じない。しかしマウスに対する抗体(HAMA)陽性者に代表される非特異的反応により偽高値となる。 採血困難な患者では組織因子混入などにより採血管内で凝固・線溶反応が亢進し、FDP が産生され偽高値となることがある。			
検査受付時間		緊急対応（24 時間）			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		採血はなるべく朝の空腹時に行う。			
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし			
検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	2 黒小	3.2%クエン酸 Na	1.8	mL
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
検体搬送条件		室温			
検体受入不可基準		1) 採取容器違いの検体 2) 凝固検体			

	3) 乳び検体 4) 採血量過不足の検体 5) サンプルングできない検体								
保管検体の保存期間	室温・当日中（追加検査については、検査室に要問合せ）								
検査結果・報告									
検査室の所在地	病院棟 3 階 中央検査部								
測定時間	当日中								
生物学的基準範囲	5.0 μ g/mL 未満 EX 共通 CL1084 : 「三輪血液病学 2006」								
臨床判断値	設定なし								
基準値				単位	μ g/mL				
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値				
0	5	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし				
パニック値	高値	設定なし							
	低値	設定なし							
生理的変動要因	特記事項なし								
臨床的意義	FDP の測定は線溶活性化のスクリーニング検査として普及している。FDP はフィブリンまたはフィブリノゲンが線溶活性を有するプラスミンの作用により切断されることにより生成される、起源、分解程度の異なる分解産物の混合物の総称である。FDP の高値は、生体内での線溶活性が亢進していることを意味している。一次線溶と二次線溶の鑑別には、FDP(t-FDP、FDP-E、p-FDP のいずれか)と D ダイマーを測定し、両者が高値のときには二次線溶を、FDP が D ダイマーに比して高値の時は一次線溶の関与を考える。ただし、胸腹水や血腫などの存在時には、病巣から血中に FDP が流入し高値となるため、PIC/PPI を測定して確認する必要がある。 EX 共通 CL1084 : 「三輪血液病学 2006」1992-1993								